

| | | | | | | | |
|---------------|---|---|---|--|--|--------|---|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 国語B | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| テキスト | 『テスト式国語常識の総演習』京都書房 他 | | | 担当者 | 岩崎 真吾 | | |
| 概要・ねらい | 社会人として最低限の知識を視野に入れ、国語に関わる様々な分野の基礎的な知識を身に付ける。また、書く、聞く、話す、という作業を通して言語能力を磨き、表現豊かな人間を目指す。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題集 第1回～第2回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 ・小論文の基礎知識 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業程度の漢字を理解できているか。 ・慣用表現、部首、対義語等を理解できているか。 ・近代俳句、短歌、文学の冒頭文を理解できているか。 ・小論文の書き方等を理解できているか。 <p style="text-align: right;">(1学期中間考査)</p> | | | |
| | | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題集 第3回～第5回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 ・面接に向けての基礎知識 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業程度の漢字を理解できているか。 ・強調表現、外来語、四字熟語等を理解できているか。 ・近代俳句、短歌、文学の冒頭文を理解できているか。 ・面接に対するマナー等を理解できているか。 <p style="text-align: right;">(1学期期末考査)</p> | | | |
| | 二学期 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題集 第6回～第8回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 ・手紙の書き方 ・問題集 第9回～第11回 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業程度の漢字を理解できているか。 ・書き言葉と話し言葉、ことわざ、類義語等を理解できているか。 ・近代俳句、短歌、文学の冒頭文を理解できているか。 ・手紙の形式等を理解できているか。 <p style="text-align: right;">(2学期中間考査)</p> | | | |
| | | 12 | <ul style="list-style-type: none"> A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業程度の漢字を理解できているか。 ・擬態語、月の異名、敬語表現等を理解できているか。 ・近代俳句、短歌、古典文学の冒頭文を理解できているか。 <p style="text-align: right;">(2学期期末考査)</p> | | | |
| 三学期 | | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | <p>学習到達目標達成のために、各自が積極的かつ意欲的に授業に参加する必要があります。また授業の進行方法は解説及び板書が中心です、必ずノート及び筆記用具を用意し書き留めて下さい。なお授業だけではなく読書が国語の力を向上させるには不可欠です。可能な限り多くの本を読み、自ら文章に触れるようにすること。</p> | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | | 問題解決の能力 | | 技能・表現 | | 知識・理解 |
| 評価の観点の趣旨 | 言語を用いた表現に関心を持った姿勢で、演習に取り組んでいる。また様々な問題から意欲的に自己を追求する。 | | 毎回の演習に向け、事前に準備が十分になされ、発表等で成果が認められる。またそれらが身に付いている。 | | 「話す」「聞く」「書く」という言語能力に長け自身を表現できている。また他の理解を深められている。 | | 高校3年生相当の国語知識、常識が身に付いており、それらを社会で活かす準備ができています。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席状況 ・授業での演習の取り組み | | <ul style="list-style-type: none"> ・発表への準備状況 ・課題の提出状況 | | <ul style="list-style-type: none"> ・発表時の態度と姿勢 | | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 |

| | | | | | | | |
|---------------|---|---|--|---|--------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 実践小論文 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | 自主教材 | | | 担当者 | 岩崎 瑠莉恵 | | |
| 概要・ねらい | 大学受験や就職活動に向けて、基礎的な原稿用紙の使い方から推薦入試や就職試験に必要な文章表現能力まで学ぶ。また、自分を知り、現代社会を感じ取り、それに対して考える力を養う。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 全20 | ①マインドマップ・自己紹介文を書く ②物語の結末を予想して書く ③未来の自分をイメージして書く ④映像をもとにテーマを設定して文章を書く ⑤志望理由書・小論文の基本構成を知る ⑥要約文を書く ⑦時事問題・ニュースに関する意見文を書く ⑧日体大課題シートに取り組む ⑨大学入試の過去問題を実践する ⑩研究テーマを考える・調べ方を学ぶ | ○基礎的文章能力が身に付いている。 ○視野を広げ、考え方を考えることができています。 ○コミュニケーション能力が上がっている。 ○正しい原稿用紙の使い方ができています。 ○時事問題への関心度が上がっている。 ○基礎的な漢字能力が上がっている。 ○丁寧で正確な文字を意識している。 | | | |
| | 二学期 | 全24 | ①志望理由書を書く ②面接ノートを作る ③時事問題・ニュースに関する意見文を書く ④大学入試の過去問題を実践する ⑤卒業作成(論文または小説) | ○実践的文章能力が上達できています。 ○研究テーマが明確になっている。 ○オリジナル作品を作成し、発想力を養うことができています。 ○視野を広げ、考え方を考えることができています。 ○時事問題への関心度が上がっている。 ○丁寧で正確な文字を意識している。 | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | 毎回の課題等の提出に関しては評価にも影響するので、必ず提出すること。 | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考力・判断力 | 技能・表現力 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 意外と知らない自分のことや他人のことを理解するための様々な課題を課している。それに対する取り組みから、コミュニケーション能力が上達している。 | 論文に限らず人として、様々な時事問題に対して、他人事で済ませぬように、自分の中で他人を理解し、広い視野で物事を考え判断する能力が必要となる。その能力が身に付いている。 | 小論文では資料を読み取り理解して、それに対する意見をしっかりと構成で順序よく述べる能力が必要となる。その能力が身に付いている。 | 時事問題の知識を得て、原稿用紙での手書き、またパソコンでの打ち込みにおいても、普段から正しい漢字を使用できる能力が必要となる。それを理解できている。 | | | |
| 評価方法 | 授業への出席状況 授業への取り組み姿勢 課題等の提出状況 | 授業への取り組み姿勢 課題等の提出 | 授業への取り組み姿勢 | 小テスト 課題等の提出 | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|--|-------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | ニュース検定 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | ニュース検定3・4級公式テキスト&問題集「時事力」基礎編2019 | | | 担当者 | 金田 浩明 | | |
| 概要・ねらい | 広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な社会人としての資質を養う。また、ニュース検定3級の資格取得を目標とし、今後の進路に活かすような授業を展開する。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 20 | 授業日前後で話題になっている時事問題を取り上げ、その背景や過程を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ●積極的に事象を理解しようとしているか。 ●諸問題に対する自身の考えをまとめることができるか。 ●自身の考えを文章にまとめることができるか。 <p style="text-align: right;">《1学期期末考査》</p> | | | |
| | 二学期 | 26 | 授業日前後で話題になっている時事問題を取り上げ、その背景や過程を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ●積極的に事象を理解しようとしているか。 ●諸問題に対する自身の考えをまとめることができるか。 ●自身の考えを文章にまとめることができるか。 <p style="text-align: right;">《2学期期末考査》</p> | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●板書をしっかり写すこと ●配布されたプリントを保管すること ●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p> | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 資料活用の技能・表現力 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 現代の世界が当面する課題について考察し、戦争を防止し民主的な平和な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識できたか。 | 政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から歴史的な事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養えたか。 | 客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確に理解し、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成できたか。 | 諸地域世界、交流圏、国際関係の展開などを、比較文明的視点からもとらえ、各時代における世界の中での日本の位置を理解したか。 | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|--|--|---|-------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 世界遺産検定 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | 『きほんを学ぶ世界遺産100』<第2版>マイナビ | | | 担当者 | 岡田 新平 | | |
| 概要・ねらい | 世界遺産を中心にその歴史や地理、現代社会における諸事情を学び、世界遺産検定3級以上の合格を目指す。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 20 | 1. 世界遺産の基礎知識 2. 日本の世界遺産 | <ul style="list-style-type: none"> ●世界遺産を学ぶ意義を見出しながら、歴史・文化的背景や気候風土に対する理解を深め、世界中に存在する様々な文化や伝統、価値観などを認めたか。 ●日本の世界遺産を学習し、基礎的な知識を身に付け、学力がついたか。また、検定に対しての意識を高く持つことができるか。 ●映像を通じて、レポート・ワーク課題を意欲的に取り組めるか。 <p style="text-align: right;">≪1学期期末考査≫</p> | | | |
| | 二学期 | 26 | 2. 日本の世界遺産 3. 世界の世界遺産 ※9月上旬に校内にて検定を実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> ●1学期で学んだことを踏まえ、引き続き日本の遺産を学習し、基礎的な知識を身に付け、学力がついたか。また、検定実施に向けて意識を高く持つことができるか。 ●外国の世界遺産について学習し、基礎的な知識を身に付け、学力がついたか。 ●映像を通じて、レポート作成、ワーク課題を意欲的に取り組めるか。 <p style="text-align: right;">≪2学期期末考査≫</p> | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●板書をしっかり写すこと ●配布されたプリントを保管すること ●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p> | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 資料活用 | 技能・表現力 | 知識・理解 | | |
| 評価の観点の趣旨 | 歴史や自然環境だけでなく、文学や音楽、絵画、神話、建築、世界政治、平和問題、観光など、現代の世界を形作る様々なものと結びつく世界遺産に興味を抱けるか。 | 世界の遺産から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。 | 地図や絵画などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。 | 私たちが日常生活を送る社会とは異なる魅力をもつ世界の文化や自然を知り、日本の文化や歴史の価値も再発見できるか。 | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|---|-------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 仕事探究 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | 自主教材 | | | 担当者 | 齋藤 翔太 | | |
| 概要・ねらい | 現代社会に存在する様々な仕事について学び、自身の将来設計に活用する。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 20 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の労働環境 世界の労働環境 日本の大企業 日本の中小企業 | <ul style="list-style-type: none"> 各テーマに興味・関心を持ち、積極的に学ぼうとしているか。 各課題に取り組んでいるか。 <p style="text-align: right;">《1学期期末考査》</p> | | | |
| | 二学期 | 26 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の技術 日本の工場 | <ul style="list-style-type: none"> 各テーマに興味・関心を持ち、積極的に学ぼうとしているか。 各課題に取り組んでいるか。 <p style="text-align: right;">《2学期期末考査》</p> | | | |
| | 三学期 | | この科目は、三学期の削減科目となっているため、授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●板書をしっかり写すこと ●配布されたプリントを保管すること ●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p> | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 資料活用の技能・表現力 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 現代社会の労働環境、問題について積極的に学ぼうとし、解決に向けた自分の考えを持つことができたか。 | 現代社会における各企業や国の課題について考察することができたか。 | 客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確に理解し、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成できたか。 | 現代社会を知るうえで必要な語句を理解することができたか。 | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 数学Ⅱ | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|---------------|---|--|---|---|-------|--------|--------------|
| 教科書 | 『Study-Up 数学Ⅱ』数研出版 | | | 担当者 | 仲 みゆき | | |
| 概要・ねらい | 図形と方程式、いろいろな関数及び、微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばすと共に、それらを的確に活用する態度を育てる。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 単元 | 評価規準 | | | |
| | 一学期 | 10 | 第2章 図形と方程式 ①点と直線 | <ul style="list-style-type: none"> 2点間の距離、内分点、外分点と座標の関係の理解を深め三角形などの平面図形の性質や関係を調べること出来るか。 直線が1次方程式で表されたことや、2直線の位置関係を調べ、直線図形の解析的な考察が出来るか。 《第1学期中間考査》 | | | |
| | | 6 4 | ②円 ③軌跡と領域 | <ul style="list-style-type: none"> 円がx、yの2次式の方程式で表されることが理解できたか。 円と直線の位置関係が、2次方程式の判別式によって調べられることが理解できたか。 いくつかの不等式で表される領域が平面の一部であることや領域が不等式で表されることが理解できたか。 《第1学期期末考査》 | | | |
| | 二学期 | 6 6 5 4 3 | 第4章 指数関数・対数関数 ①指数関数とその性質 ②対数関数とその性質 第5章 微分と積分 ①微分係数と導関数 ②導関数の応用 ③積分 | <ul style="list-style-type: none"> 指数を正の整数から整数に拡張したときも、指数法則が成立することが理解できたか。 累乗根の意味が理解でき、簡単な計算が出来るか。 指数関数の性質と関連づけながら、対数関数の性質について理解を深め、そのグラフの特徴と性質が理解できたか。 《第2学期中間考査》 <ul style="list-style-type: none"> 関数の平均変化率の極限として、微分係数を求めることができたか。 また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的な意味が理解できたか。 導関数を用いて、関数の極大・極小を調べ、グラフがかけられたか。 微分法の逆演算として、不定積分を導入し、整関数について、不定積分の計算ができたか。 定積分の定義を理解し、その計算ができたか。 放物線や直線で囲まれた図形の面積を定積分により求める方法が理解できたか。 《第2学期期末考査》 | | | |
| 三学期 | | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | 授業では毎回、教科書・ノートを準備し、板書は必ずノートに書くこと。月に1回ノートをチェックします。ノートは評価の対象となるので、必ずノートチェックには対応すること。 | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考力・判断力 | 資料活用の技能・表現力 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点 | 数学的活動を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識しているか。 | 事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。 | 表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できるか。 | 原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身についたか。 | | | |
| 評価方法 | 授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 ノートチェック | 授業への取り組む姿勢 ノートチェック 定期考査 | 授業中の解答 課題提出 定期考査 | 授業中の解答 課題提出 定期考査 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 数学B | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|------------------------------|--|--|--|--|--|--------|--------------|
| 教科書 | 『Study-Up 数学B』数研出版 | | | 担当者 | 萩原 満 | | |
| 概要・ねらい | 数列やベクトルについて理解させ、その概念は現実に応用が出来るものであり、事象を数学的に考察し処理する能力を育むとともに、数学的な見方や考え方の良さを実感できるようにする。また、数学的帰納法などに代表される、数学Bで学ぶ知識が、「生きる力」として身に付くようにする。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価規準 | | | |
| | 一学期 | 3 3 4 4 3 3 | 第1章 数列 | 数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解し、等差・等比数列の一般項や和を求めることが出来る。 数列の帰納的定義について理解し、簡単な漸化式を扱うことが出来る。また、帰納的な考え方の良さに気づき、等式や不等式の証明に利用することが出来る。 | 《第1学期中間考査》 《第1学期期末考査》 | | |
| | | | 1節 数列 | | | | |
| | | | 等差数列・等差数列の和 | | | | |
| 等比数列・等比数列の和 | | | | | | | |
| 和の記号 Σ | | | | | | | |
| いろいろな数列 | | | | | | | |
| 2節 漸化式と数学的帰納法 | | | | | | | |
| 漸化式 | | | | | | | |
| 数学的帰納法 | | | | | | | |
| 二学期 | 3 4 3 4 3 4 3 | 第2章 ベクトル | 平面上のベクトルの概念を理解し、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解している。また、ベクトルの加減法や内積を理解し、問題に応用が出来る。 位置ベクトルについて知り、図形の問題をベクトルを利用して解くことが出来る。また、平面上の直線や円などの図形が、ベクトルを用いて表現されることを知ることで、身近な事象に置き換えて考えることが出来る。 | 《第2学期中間考査》 《第2学期期末考査》 | | | |
| | | 1節 平面上のベクトル | | | | | |
| | | ベクトルの意味 | | | | | |
| | | ベクトルの加法・減法・実数倍 | | | | | |
| | | ベクトルの成分 | | | | | |
| | | ベクトルの内積 | | | | | |
| | | 2節 ベクトルの応用 | | | | | |
| | | 位置ベクトル | | | | | |
| 図形のベクトル方程式 | | | | | | | |
| ベクトルの図形への応用 | | | | | | | |
| 三学期 | 3学期は授業を行いません。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 授業では毎回教科書・ノートを準備し、板書は必ずとること。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 数学的な見方や考え方 | 表現・処理 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点 | 数学的な活動を通して数 列・ベクトルの考え方や思 考に興味・関心を持ち、 様々な事象をその考え 方で考察しようとするこ が出来ているか。 | 事象を数学的にとらえる ことができ、数学的な見 方や考え方を思考の過 程を振り返ることが出 来ているか。また、活 動を通して多面的・発 展的に考えることが出 来ているか。 | いろいろな問題に触 れる中で、身近な事 象を用いて数学的な 考え方を基に、その 事象を表現する方 法を身につけるこ が出来ているか。 | いろいろな問題を解 決する活動の中で、 身近な例を数 列・ベクトルで表 すことの良さを理 解し、応用も含 めた知識を身に つけることが出 来ているか。 | | | |
| 評価方法 | 授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 ノートチェック | 授業への取り組む姿勢 ノートチェック 定期考査 | 授業中の解答 課題提出 定期考査 | 授業中の解答 課題提出 定期考査 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 総合理科 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|--|---|---------------------------------------|---|---|-------|--------|--------------|
| 教科書 | 担当者作成プリント | | | 担当者 | 峯岸 健文 | | |
| 概要・ねらい | <p>・日常で起こる様々な事象を再確認したり、生物・化学・物理・地学の基本的な部分を学ぶ。基本を知ることにより、理科の楽しさを知り、観察・実験・演習を通じて探究心を養うことを目的とする。</p> <p>・博物館などに出向き、最先端の技術にふれ経験を積む。</p> | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 10 | I 物理 ○物理学の歴史 ○速さ・時間・距離 ○様々なエネルギー ○エネルギーとスポーツ | 物理学の歴史を学ぶことにより、身近で起きている事象を科学的に考え、理解する。また、エネルギーについて考えエネルギーの変換についても理解する。そしてスポーツに利用されている事象を考察する。 (中間考査) | | | |
| | | 10 | II 地学 ○地学の歴史 ○地球 ○太陽系 ○宇宙の広がり | 生命が繁栄できた地球について考え、その形成過程や形成環境について理解する。また、太陽系の天体についても理解し、生命誕生の奇跡的な確率についても考える。 (期末考査) | | | |
| | 二学期 | 13 | I 生物 ○生物学の歴史 ○動物と植物 ○細胞の観察 ○人体の仕組みと不思議 | 生物学の歴史を知り、最先端医療技術等について関心を深め、理解する。また、動物細胞・植物細胞を観察し、生物の最小単位が細胞であることを理解する。そして、人体の仕組みについて考え、理解する。 (中間考査) | | | |
| 13 | | IV 化学 ○化学の歴史 ○物質の最小単位 ○現代の化学 | 化学の歴史と変遷を理解する。また、物質の最小単位である原子について、もう一度理解を深める。そして、身の周りの物質についても考える。 (期末考査) | | | | |
| 三学期 | 3学期は授業を行いません。 | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 授業は板書したり、プリント等を利用するので、必ず筆記具・ノート等を用意してください。また、課題等の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 観察・実験・表現 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点 | ・自然界で起こっている現象について、意欲的に学ぼうとしているか。 | ・事物や事象に対して、考察し、科学的な評価をできるか。 | ・普段気に留めないような些細なものに対して興味をもち、しっかりと観察し、レポート等を完成することができるか。 | ・自然界の事象・現象を理解し、探究心をもって取り組むことができるか。 | | | |
| 評価方法 | 授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 課題等の提出状況 | 小テスト 授業への取り組む姿勢 課題等の提出 | 小テスト 授業への取り組む姿勢 | 小テスト 課題等の提出 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 実験 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|---------------|--|------------------------------------|---|---|-------------|--------|--------------|
| 教科書 | 自主教材 | | | 担当者 | 松村 智代・梅岡 雅人 | | |
| 概要・ねらい | 化学実験の取り組みを通して、身近な物質の特徴や身近な現象を理解します。また生活での利用などにも理解を深めるようにします。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 20 | ①講座説明 「オランダの涙をつくる」 ②「ろ過・蒸留・吸着を学ぶ」 ③「マーガリンからセッケンをつくる」 ④「バターづくり」 ⑤「重曹の利用(カルメ焼き、倒立型消火器)」 ⑥「食用油でローソクづくり」 ⑦「豆腐づくり」 ⑧「身近な液体のPH測定」 ⑨課題の調査とまとめ | ・実験の目的を理解出来たか。 ・実験を通して、物質の特徴や性質、利用などを理解出来たか。 ・実験器具の適正な利用法を学び、その利用法や操作を適正に行うことが出来たか。 ・実験結果についての考察を適切にし、また課題について適正な方法での調査をしてまとめることが出来たか。 ≪レポート提出≫ | | | |
| | 二学期 | 24 | ①「酸・塩基の中和滴定」 ②「ドライアイスをつかってつくる」 ③「使い捨てカイロを調べて、つくる」 ④「電気分解でつくる」 ⑤「金属の性質を調べる」(1) ⑥「金属の性質を調べる」(2) ⑦「熱気球・炭酸ロケットをつくる」 ⑧「電池づくり」 ⑨「反応熱を利用してつくる」 ⑩課題の調査とまとめ | ・実験の目的を理解する。 ・実験を通して、物質の特徴や性質、利用などを理解する。 ・実験器具の適正な利用法を学び、その利用法や操作を適正に行う。 ・実験結果についての考察を適切にし、また課題について適正な方法での調査をしてまとめる。 ≪レポート提出≫ | | | |
| | 三学期 | 3学期は授業を行いません。 | | | | | |
| 評価の観点 | ・化学実験室での実験が主になります。操作指示を守って安全に実施することが絶対に求められます。筆記用具持参。 ・一、二学期の最後は課題の調査とまとめを行ない、期限までに提出します。 | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 表現・処理 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点 | ・実験の目的を理解しているか。 ・意欲的に実験に取り組んでいるか。 | ・実験操作が適正で、実験結果について十分な考察がなされているか。 | ・レポートの内容が適切か。 ・課題が正しくまとめられているか。 | ・実験内容・結果から得た知識は何か。 | | | |
| 評価方法 | ・実験に取り組む姿勢。 ・実験レポート、課題の提出とその内容。 | ・実験に取り組む姿勢。 ・実験レポート、課題の提出とその内容。 | ・実験レポート、課題の提出とその内容。 | ・実験レポート、課題の提出とその内容。 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 実践柔道 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|--------------------------|---|----------------------------|---|---|--------|--------|--------------|
| 教科書 | 『ステップアップ高校スポーツ2017』大修館 | | | 担当者 | 小久保 純史 | | |
| 概要・ねらい | 技能の程度に応じて目標をもたせ、勝敗の原因を考え技能の練習方法を工夫するなど、互いに協力して計画的に練習や試合ができるようにする。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 全20 | 1. 基本動作 ①受身Ⅱ 2. 对人的技能 ①立技 ・大腰 ・背負い投げ ・大外刈り ②固め技 ・袈裟固め ・横四方固め ・上四方固め | ・四つんばいの人を飛び越えてからの前回り受身等、その速さ、強度に応じた前回り受身ができたか。 ・正しくスピード感ある打ち込みができるか。 移動しながらバランス崩さずに投げることができるか。 ・正しい抑え方、逃げ方を理解できたか。 決めのポイントを理解し、それを実践してできるか。 《実技試験》 | | | |
| | 二学期 | 全26 | ③立技 ・体落とし ・大内刈り ④絞め技 ・裸絞め ・送り襟絞め 3. 乱取り ①立技乱取り ②寝技乱取り | ・正しくスピード感ある打ち込みができるか。 移動しながらバランス崩さずに投げることができるか。 ・正しく頸動脈や気管を圧迫した絞めができるか。 絞め技の防御と逃げ方を理解できたか。 ・規則を守り、互いに相手を尊重し、公正な態度で練習が激しくできるか。 《実技試験》 | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 柔道着は、体に合ったサイズのものを着用すること。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 柔道の連絡技に関心を持ち、学習に取り組もうとする。 | 自分の得意技からの連絡変化を考えながら練習ができる。 | 組み手で相手の技を封じ、相手のバランスを崩して投げることができる。 | 勝負の判定、反則の判定等試合の規定を理解する。 | | | |
| 評価方法 | 授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 | 実技テスト 授業への取り組む姿勢 | 実技テスト 授業への取り組む姿勢 | 実技テスト 授業への取り組む姿勢 | | | |

| | | | | | | | |
|---------------|---|--|---|--|-------|--------------------------------------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 実践剣道 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| テキスト | 「実践剣道」大修館・「基本技稽古法DVD」剣道時代 | | | 担当者 | 岡村 敏博 | | |
| 概要・ねらい | 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、自己の責任を果たそうとするなどや、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。その中で、昇段に向けて取り組む姿勢を養う | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 全20 | 基本動作 (礼法・自然体・竹刀の握り方・構え 体捌き・素振り) 剣道具の着装 切り返し・打ち込み 応用(仕掛け技・応じ技) 互格稽古 木刀による剣道基本技稽古法 | <ul style="list-style-type: none"> 常に相手を尊重した態度で協力し合って練習している。 基本動作を正しく身に付けようとしている。 刃筋正しく打突し、気剣体一致の技を打つことができる。 目標時間内に剣道具を着装できる。 体捌き、足捌きから気剣体の一致の技を実践できる。 剣道の基本動作を応用し、気剣体一致の技を打つことができる。 互格稽古の中で相手の攻撃に対し反射的に技を出すことができる。 礼儀作法を正しく理解し、実践しようとしている。 <p style="text-align: right;">《実技試験》</p> | | | |
| | 二学期 | 全26 | 切り返し・打ち込み 応用(仕掛け技・応じ技) 試合稽古 日本剣道形(五本目まで行う) | <ul style="list-style-type: none"> 体捌き、足捌きから気剣体の一致の技を実践できる。 剣道の基本動作を応用し、気剣体一致の技を打つことができる。 試合稽古の中で相手の攻撃に対し瞬間的に判断し、反射的に技を出すことができる。 立ち合い、礼法、姿勢態度、間合い、機会、気力、呼吸法、刀法を理解し、形を打つことができる。 <p style="text-align: right;">《実技試験》</p> | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本手ぬぐい ・木刀、竹刀、剣道具の点検 ・十分な準備体操 | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 問題解決の能力 | | 技能・表現 | | 知識・理解 | |
| 評価観点趣旨 | 剣道の学習の仕方を理解し、常に相手を尊重した態度で礼儀作法を正しく実践できる。 | 自分の身を危険から回避することができ、怪我の防止に役立つことができる。 | | 剣道の練習を通して、主に瞬発力、筋力、全身持久力、調整力を向上させることができる。 | | 相手の仕掛けてくる技に対し瞬間的に判断し、反射的に技を出すことができる。 | |
| 評価方法 | 授業への参加意欲の観察 | 授業への参加意欲の観察 | | 授業への参加意欲の観察 実技試験 | | 授業への参加意欲の観察 | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | コミュニティーダンス | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| テキスト | 『ステップアップ高校スポーツ2017』 大修館 | | 担当者 | 米澤 倫子 | | | |
| 概要・ねらい | ダンスのもっている力を「創造力・コミュニケーション力・表現力」を社会の中のあらゆる局面において活かせるよう身につける。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 全20 | <ul style="list-style-type: none"> ストレッチ、ウォームアップ 動きの発展 即興から動きを生み出す。 ミラーゲームからの動きの発展 インプロゲームからの動きの発展 作品づくり 発表、鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> 他のグループの動きや表現の良さを見つけて伝え合い、また、アドバイスし合い、それを生かして改善することができたか。 作品を発表し合い、鑑賞し、そして他のグループ作品を体験することによって互いのよさを認め合い、相互に評価できたか。 テーマから思い浮かぶ動きをみんなで出し合うことができたか。 発想豊かにイメージを広げながら作品を作ることができたか。 《実技試験》 | | | |
| | 二学期 | 全26 | <ul style="list-style-type: none"> ストレッチ、ウォームアップ 動きの発展 即興から動きを生み出す。 ミラーゲームからの動きの発展 インプロゲームからの動きの発展 作品づくり 発表、鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> 他のグループの動きや表現の良さを見つけて伝え合い、また、アドバイスし合い、それを生かして改善することができたか。 作品を発表し合い、鑑賞し、そして他のグループ作品を体験することによって互いのよさを認め合い、相互に評価できたか。 《実技試験》 | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席をしない。 身なりを整え、長い髪は結び、爪は切ってくること。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 運動の技能 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 授業に積極的に参加しているか。 | 自分の課題を達成させるために学習活動へ取り組んでいるか。 | いまある技能を伸ばせるように課題をもって参加しているか。 | 各種運動の特性を理解しているか。 | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 出席状況 学習姿勢 活動状況 | <ul style="list-style-type: none"> 学習姿勢 課題発表 | <ul style="list-style-type: none"> 学習姿勢 課題発表 | 課題レポート提出 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 鑑賞で知る音楽史 | 単位数 | 1 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|--|--|---|---|---|---------------------|--------|--------------|
| 教科書 | 自主教材・オペラDVD使用 | | | 担当者 | 佃 馨 | | |
| 概要・ねらい | 音楽を題材にしたDVDを鑑賞し、その時代の生活習慣や文化等について学習する。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | | 1 1、オリエンテーション 鑑賞に対する姿勢と、この講座の主旨を説明する。 5 2、モーツァルトの生涯を知る。 映画「アマデウス」の鑑賞を通じ、モーツァルトの作品を知る。 8 3、ベートーヴェンの生涯を知る 4 ※モーツァルトのオペラ作品を鑑賞する。 モーツァルトのオペラと、現代オペラの違いを知る。 「魔笛」「フィガロの結婚」「トゥーランドット」いずれも抜粋 | モーツァルトの生きた時代背景などを理解する事ができたか。 古典派の時代と作曲家ベートーヴェンについて、理解することができたか。 オペラ「魔笛」の鑑賞 内容について、興味を持って鑑賞し、内容を理解する事が出来たか。 | | | |
| | 二学期 | | 6 4、ミュージカルの鑑賞 「オペラ座の怪人」の鑑賞 6 「オズの魔法使い」 2 滝廉太郎の生涯 6 アニメーションに見るミュージカルの手法 ディズニーのアニメーションを鑑賞。 4 日本のアニメーション 手塚治虫と日本のアニメーション 宮崎駿の作品の鑑賞。 | ミュージカルとオペラの違いについて、理解する事が出来たか。 オペラの歴史と、ミュージカルの歴史について、理解する事が出来たか。 ストーリーについて理解し、感想文において、表現する事が出来たか。 日本を代表する作曲家、滝廉太郎について理解する事が出来たか。 「ピーターパン」「白雪姫」等の名作を鑑賞し、ミュージカルの要素を探る事が出来たか。 アニメーションの歴史と、その原理について知り、興味を持って取り組む事が出来たか。 | | | |
| | 三学期 | | 3学期の授業は行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 鑑賞が中心となる授業なので、取り組む姿勢には十分な注意が必要。 ● 鑑賞内容や、理解した事について、授業中課題試験を行う。また、感想文等で物語を理解し、自身の感じたことをしっかりと表現できているかを評価する。 ● 興味を持って取り組んでいるかを、レポートやの一と検査によって確認する。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 芸術的な感受や表現の工夫 | 創造的な表現の技能 | 鑑賞の能力 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 鑑賞を通して、その物語の趣旨を理解する事が出来る。 作者について、積極的に学習する事が出来る。 | 作品の背景や、作者が伝えようとする事を的確にとらえ、感想文等で表現し伝える事が出来る。 | 作品の中で、役者の台詞、動作、アリア等の意味をとらえ、レポート等で自分が感受した事を表現出来る。 | 物語の趣旨を多方面から捉え、理解する事が出来る。 | | | |
| 評価方法 | 授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等 | | | 学習プリントの提出 | 取り組む姿勢 学習プリントの提出 | | |

| | | | | | | | |
|---|---|------------------------|--|--|-------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 美術選択B | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | 自主教材 | | | 担当者 | 岡田 敬子 | | |
| 概要・ねらい | 基礎デッサンの習得を目指す。油絵の基礎を学ばせる。 正確な物の形を把握する事と創造性を養う。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 2 | 基礎デッサンの用具使い方を指導する | 木炭紙 木炭の使い方 消す方法 | | | |
| | | 6 | 基礎デッサン(石膏像) | 木炭紙を使用 モチーフを観察し、正確な形や、陰影を表現できたか。 | | | |
| | 二学期 | 4 | 油絵道具の使い方とキャンパスの下描き | 油絵の具の基本的な使い方を理解できたか。 完成をイメージし、効果的な下描きが作れたか。 | | | |
| 10 | | 風景油彩(好きな風景写真を使用) | 自分の表したい風景表現ができたか。 作品の独創性・完成度 | | | | |
| 三学期 | 12 | 静物油彩(花、ビン、果物等) | モチーフを画面に美しく配置し、色彩を工夫し独自の表現ができたか。 学んできた色彩の効果を応用し、遠近感を表現できたか。 作品の独創性・完成度 | | | | |
| | 12 | 銅版レリーフ | アイデアスケッチをまとめる ヘラや釘などで細かい描写を表現できたか。 燻し液を使って腐食させ、銅による味わいを表現できたか。 作品の独創性・完成度 | | | | |
| | | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 持ち物には必ず記名する 授業時に使用したものにはきちんと掃除をし整頓しておく 実技作品は提出期限を守る | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 芸術的な感受や表現の工夫 | 創造的な表現の技能 | 鑑賞理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 基礎デッサンを理解させ | 豊かに表現し大きな視点で物を捉える力がある。 | 創造的な表現をする為の様々な工夫をしている。 用具の使い方の理解度 | 優れた作品への理解と知識を養う。 | | | |
| 評価方法 | 作品の完成度と確かなデッサン力の表現 | 実技作品の完成度 授業への積極的参加 | 1、実技作品の完成度 2、授業への取り組む姿勢 | 1、観察力を養う 2、授業への取り組む態度 | | | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 書道選択B | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|---|--|-----------------------|---|---|-------|--------|--------------|
| 教科書 | 自主教材 | | | 担当者 | 北田 朋子 | | |
| 概要・ねらい | <p>これまで学習したことを更に発展させ、創造的で個性的な造形の豊かさと線質の豊かさを高め、書の文化や伝統を愛好する心を育てる。 書の多方面な展開を楽しむ。</p> | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 6 4 2 10 | 臨書(半切作品制作) 漢字仮名交じりの表現 一字創作 自由制作(全紙作品制作) | 古典の筆法をまねて、半切作品を制作することができたか。 漢字と仮名を調和させ、表現できたか。 決められた紙面に漢字を工夫して配置できたか。 今まで学んだことを活かし、オリジナルな作品を制作することができたか。 よき位置に名前を書き、印を押すことができたか。 お互いの作品を鑑賞することができたか。 | | | |
| | 二学期 | 20 | さまざまな書表現 うちわ等への文字入れ マーブリング 白抜き文字 アクリル絵の具による表現 | 様々な技法での手順を理解し、オリジナルな作品を制作できたか。 | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| <p>共有物は大切に使用し、次の時間の生徒に不愉快さを与えないことを学ばせる。 学習内容により危険物を使用することもあるので、沈着な授業展開が必要となる。 毎時間作品の提出を求める。</p> | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 芸術的な感受 | 創造的な表現と技術 | 鑑賞と理解の能力 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 主体的に書と関わる姿勢が必要。自ら感性を高め美との関りに喜びを求める。 | 感受性豊かに、作品に反映させた作品を作る。 | 教材を理解し独自の表現を試みる。 | 歴史の展開を知り、その時代背景と共に鑑賞する。素直に表現する。 | | | |
| 評価方法 | 授業に取り組む姿勢。作品の成績と提出状況 | 作品の完成度。文言の選択。 | 作品の完成度。独自性。用具用材への取り組み方 | 作品の完成度。作品にいかにかかせたか。 | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|----------------------------|--|--|------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 実践英語 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | オリジナルテキスト | | | 担当者 | 木俣直美 | | |
| 概要・ねらい | スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの各分野における英語力の伸長を促す。 2020年東京オリンピックで活躍する英語力を身につける。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 一学期 | 2 | 1 基本の自己紹介、基本的会話の仕方 | ・自分の情報を相手に伝える。また相手の情報を得る。 | | | |
| | | 4 | 2 基本的な質問の仕方と答え方 日本について知る | ・ほしい情報を相手にたずねてみて、また相手からの質問に適切に答えを返す。 | | | |
| | | 6 | 3 道案内の仕方を修得する | ・実践で使えるように自分なりに工夫し、習得する。 | | | |
| | | 6 | 4 実践練習 | ・実践練習を繰り返し、課題を見つけ克服する作業を繰り返す。 | | | |
| | | 2 | 5 まとめ | 第1学期中間スピーキングテスト 第1学期期末スピーキングテスト ライティング課題 | | | |
| | 二学期 | 6 | 5 日本文化を英語で紹介する | ・紹介したい日本文化を見つけ、紹介する練習をする。 | | | |
| | | 4 | 6 文化祭での発表準備 | ・文化祭での披露に向け準備をする。 | | | |
| | | 6 | 7 日本の有名観光地について知る | ・有名観光地について詳しく調べ、英語で説明できるようにする。 | | | |
| | | 6 | 8 実践練習 | ・実践練習を繰り返し、課題を見つけ克服する作業を繰り返す。 | | | |
| | 2 | 9 まとめ | 第2学期中間スピーキングテスト 第2学期期末スピーキングテスト ライティング課題 | | | | |
| 三学期 | 3学期は授業を行いません | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 1 真面目に授業に参加すること。 2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。プリントをそのつど配布するので無くさないようファイルしておくこと。 3 ワークシートを配布するので無くさないようファイルしておくこと。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 英語的な見方や考え方 | 表現・処理 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 出席、発言 グループ内での積極的な活動 | 日本語との表現の違いを理解し、適切な判断ができるか。 | 自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。 | 英語表現を含む、英語文化の理解ができていないか。 | | | |
| 評価方法 | 出席、発言 授業への取り組む姿勢 | 授業への取り組む姿勢 スピーキングテスト | スピーキングテスト ライティング課題 | ライティング課題 授業内発表 | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|----------------------------|---|-----------------------------------|-------------------------------------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | Active English | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | オリジナルテキスト | | | 担当者 | Benjamin Beardsley ・ Justine McCabe | | |
| 概要・ねらい | スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの各分野における英語力の伸長を促す。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 単元 | 学習内容 | | | |
| | 一学期 | 4 | 1 基本の自己紹介の仕方 | ・自分の情報を相手に伝える。また相手の情報を得る。 | | | |
| | | 4 | 2 基本的な質問の仕方と答え方 | ・欲しい情報を相手に尋ねて、また相手からの質問に適切に答えを返す。 | | | |
| | | 6 | 3 要約 | ・重要な箇所を的確にまとめる。 | | | |
| 6 | | 4 旅行英会話 | ・旅先での、ホテル予約など必要な作業などを学習する。 第1学期中間スピーキングテスト 第1学期期末スピーキングテスト ライティング課題 | | | | |
| | | (20) | | | | | |
| 二学期 | 6 | 5 旅行英会話 | ・旅先での、航空券予約や伝言の聞き方の学習 | | | | |
| | 10 | 6 質疑応答 | ・いろいろな場面に応じて、必要な受け答えを練習 (家族の説明、医者での会話など) ・ニュースの理解 | | | | |
| | 10 | 7 ライティングの訓練 | ・1学期に習ったことをもとに、自分を表現するより長い文章を書いてみる。 第2学期中間スピーキングテスト 第2学期期末スピーキングテスト ライティング課題 | | | | |
| | | (26) | | | | | |
| 三学期 | | | 3学期は授業を行いません | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | |
| 1 真面目に授業に参加すること。 | | | | | | | |
| 2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。プリントをそのつど配布するので無くさないようにファイルしておくこと。 | | | | | | | |
| 3 ワークシートを配布するので無くさないようファイルしておくこと。 | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 英語的な見方や考え方 | 表現・処理 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | 出席、発言 グループ内での積極的な活動 | 日本語との表現の違いを理解し、適切な判断ができるか。 | 自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。 | 英語表現を含む、英語文化の理解ができていないか。 | | | |
| 評価方法 | 出席、発言 授業への取り組み姿勢 | 授業への取り組み姿勢 スピーキングテスト | スピーキングテスト ライティング課題 | ライティング課題 授業内発表 | | | |

| | | | | | | | |
|-----|---------------|----|----|-----|--------|--------|--------------|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 保育 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
| 教科書 | 『保育の基本用語』わかば社 | | | 担当者 | 江波戸 純子 | | |

概要・ねらい

乳幼児の特性を理解し、また部屋に季節の飾り付けをするなど実践的な授業を中心にする事で、保育に関する意欲を出させる。また、将来保育士としての役割や子どもに与える影響などを考え、起こりうる問題の予測・問題解決への適切な対応をする能力を養う。

| | | | | |
|--------|-----------|------------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 |
| | 一学期 | 1 | オリエンテーション | これから行う内容を理解できたか。 |
| | | 1 | 『子どもが育つ魔法のことば』について | 人に影響を与える言葉を理解できたか。 |
| | | 1 | 紙芝居の読み聞かせ | 紙芝居を読み聞かせる方法を理解できたか。 |
| 1 | | 年間行事について | 日本伝統の行事について、理解できたか。 | |
| 2 | | 折り紙 | いろいろな折り紙を折れるようになったか。 | |
| 4 | | 「誕生日カレンダー」作成 | 各月の特徴を生かした誕生日カレンダーができたか。 | |
| 4 | | 名札の作成 | 子どもの興味を引く名札が完成できたか。 | |
| 2 | | 子どもの発育について | 乳幼児の身体発達の過程を理解できたか。 | |
| 2 | | 子どもの運動機能・手遊びについて | 月齢にあった遊びを理解し、手遊びを考えられたか。 | |
| 2 | 「指導案」作成 | 時間配分や指導内容等を考え事前にしっかりと準備できたか。 | | |
| | | | | ≪「紙芝居」発表≫ ≪「指導案」提出≫ |
| 二学期 | 1 | オリエンテーション | 2学期の内容を理解できたか。 | |
| | 2 | 「園だより」作成 | 各月の行事を踏まえ、園だよりが作成できたか。 | |
| | 17 | 生徒による授業 | 指導案の通りに授業を進めることができたか。 | |
| 6 | 保育園・幼稚園実習 | これまで学んだことを実践で活かすことができたか。 | | |
| | | | | ≪「園だより」提出≫ ≪「よだれかけ」提出≫ |
| 三学期 | | | 3学期は授業を行いません。 | |

履修上の注意

実習重視の授業です。それぞれの学期ごとに提出するレポート・作品などがあるので、期日を守りきちんと提出をして下さい。またそれぞれの内容を理解した上で実践していきますので、積極的な姿勢で授業に臨んでください。

評価の観点の趣旨と評価方法

| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 技能・表現 | 知識・理解 | 思考・判断 |
|----------|--|---|-------------------------------------|--|
| 評価の観点の趣旨 | 乳幼児の特徴に興味を持ち、積極的な姿勢で授業に臨み、制作活動にも主体的な取り組みが見られる。 | 乳幼児の特徴を理解し、衣・食・安全について配慮し、豊かな感性を育てるよう、表現できる。 | 乳幼児の特徴を理解し、それぞれの年齢にあった表現方法が身についている。 | 乳幼児に対しての技法を理解し、様々なタイプの乳幼児に対して瞬時に判断をしながら、適切な対応が出来る。 |
| 評価方法 | 授業の出席状況 授業に取り組む姿勢 作品の提出 | 季節の飾りつけ 保育技術検定 模擬授業 | 小テスト 保育技術検定 模擬授業 | 授業に取り組む姿勢 問題解決の方法 保育実習 |

| | | | | | | | | |
|--|--|------------------|---|--|-----------------------|--------|--|--|
| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 食物 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 | |
| 教科書 | 使用教科書なし | | | 担当者 | 古川 なおみ | | | |
| 概要・ねらい | 2年次に学んだ食物の知識・技術を基本にし、食物検定受験をすることで、さらに詳しく調理についての知識・技術を習得する。また、よく目にする加工食品や日本の伝統料理について、調査・研究した上で、実際に調理をする。食品についての知識を習得するために、テーマを決めた調理実習をする。 | | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | | |
| | 一学期 | 2 | オリエンテーション | 今後の流れを把握し、理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | 専門学校講師によるデザート実習 | 今後の進路決定において、専門家から、学ぶことが出来たか。 | | | | |
| | | 2 | 手量り・目測・いろいろな切り方実習 | 調理の基礎実習として、物の重さと分量の目安を理解できたか。また、材料の切り方の技術と知識を理解できたか。 | | | | |
| | | 1 | 食物検定4級実技内容練習 | 食物検定4級の内容を含め、調理の基礎が理解できたか。 | | | | |
| | | 1 | 食物検定4級内容VTR | VTR「調理の基礎知識」 | | | | |
| | | 2 | 「味噌」調理実習 | 日本の伝統的加工食品の作り方を理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | 「だんご」調理実習 | 「米」を原材料にした加工食品について理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | テーマ「米」の調理実習 | また、普段食べているものの作り方が理解できたか。 米を中心として献立を考え、実習することができたか。 《レポート「米」》 | | | | |
| | | 2 | 食物検定4級受験 | 調理・栄養の基礎を理解できているか。 | | | | |
| | | 2 | 食物検定3級内容調理実習 | 食品の特性を理解し、調理の手順を考え、おいしく、見栄えよい調理ができたか。 | | | | |
| | 2 | 食物検定3級受験 | 1つの料理を作る材料・手順を理解できたか。 | | | | | |
| | 二学期 | 2 | 献立の立て方 | いろいろな調理法、栄養のバランスを理解しながら献立を立てる手順が理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | 「きつねうどん」調理実習 | 「小麦粉」の調理性、油揚げ、だしの取り方を理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | 「パン・ジャム」調理実習 | 「小麦粉」と「砂糖」について理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | 「マカロニグラタン」調理実習 | 「小麦粉」の調理性のドウとルーを理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | テーマ「小麦粉」の調理実習 | 「小麦粉」の特性を生かした調理ができたか。 | | | | |
| | | 2 | 「ハンバーグ」調理実習 | 「肉」の特性について理解できたか。 | | | | |
| | | 2 | テーマ「肉」の調理実習 | 「肉」の特性を生かした調理ができたか。 《レポート「小麦粉」「肉」》 | | | | |
| | | 2 | テーマ別献立作成・調理計画 | バランスの良い献立か。調理手順に無駄は無いのか。 | | | | |
| 2 | | 文化祭準備 | 「お弁当」に適切な献立・調理法をし、彩りよくお弁当箱につめることができたか。 《レポート「お弁当」》 | | | | | |
| 2 | | 「日本の行事食」調理実習計画 | 伝統的な行事食を理解し、自分の生活に取り入れる工夫ができたか。 | | | | | |
| 三学期 | 2 | 「おせち料理」調理実習 | 「おせち料理」の調理手順を理解できたか。 | | | | | |
| | 2 | 「X'masパーティー」調理実習 | 「パーティー料理」の献立・調理手順を理解できたか。 | | | | | |
| 3学期は授業を行いません。 | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | | |
| 実習重視の授業です。それぞれの学期ごとに提出するレポート・作品などがあるので、期日を守りきちんと提出をして下さい。またそれぞれの内容を理解した上で実践していきますので、積極的な姿勢で授業に臨んでください。 | | | | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | | 技能・表現 | | 知識・理解 | | 思考・判断 | |
| 評価の観点の趣旨 | 食に対して関心を持ち、食材や調理に対する知識・技術を習得する姿勢と実習に対する積極的態度が見られる。 | | 食材・調理法の知識・技術を習得し、味・栄養・見た目・調理法のバランスを考えた献立を立て、実際に調理をする能力が身についている。 | | 食材・調理法の知識・技術が身についている。 | | 基礎を学び、その場にあった献立を考え、様々な食材に対応した調理法を選ぶなど、食に対しての問題に適切な対応をすることが出来る。 | |
| 評価方法 | 授業の出席状況 授業に取り組む姿勢 レポートの提出 | | 献立レポートの提出 実習に取り組む姿勢 料理の味・見た目のバランス | | 食物検定受験 レポートの提出 | | 授業に取り組む姿勢 問題解決の方法 | |

| 教科 | 学校設定科目 | 科目 | 情報デザイン基礎 | 単位数 | 2 | 学年・コース | 3年 総合・体育/選択者 |
|---------------|--|---|---|---|-------------------|--------|--------------|
| 教科書 | 自主教材 | | | 担当者 | 福島 伸一・村山 健介・関野 楓馬 | | |
| 概要・ねらい | 情報社会における、情報デザインの必要性や考え方を理解しデザインに向かう基本的な姿勢を身に着ける。インタラクティブメディアデザイン分野における情報伝達手法・表現などの基礎知識と応用を身に着ける。 | | | | | | |
| 年間授業計画 | 学期 | 配当時間 | 学習内容 | 評価基準 | | | |
| | 一学期 | 2 4 6 8 | ◆情報デザイン基礎 1. 情報デザイン概要 2. 情報社会とデザイン 3. 表現の基礎 4. WEBコンテンツ作成基礎 | 現在までに形作られてきたデザインの考え方や方法の基本的な知識を踏まえ、情報社会における情報デザインの必要性を理解することができる。 形・色などの視覚表現の特性について理解を深め、その知識をWEBコンテンツ作成に活用することができる。 | | | |
| | 二学期 | 3 4 4 16 | ◆インタラクティブデザイン分野における情報デザイン 1. デジタルメディアの情報伝達手法・表現 2. WEBコンテンツ企画・設計 3. 情報表現とユーザーインターフェース 4. CSSを利用したWEBコンテンツ作成 | インタラクティブデザイン分野の中での情報デザインを理解することができる。 WEBコンテンツ作成の、企画・設計の基礎的な知識を習得する。 CSSを利用したWEBコンテンツ制作に関する知識や技術を習得し活用できる。 | | | |
| | 三学期 | | 3学期は授業を行いません。 | | | | |
| 履修上の注意 | | プリントを配布するのでファイルを準備しておくこと。実習中心の授業となるので遅刻欠席をしないこと。評価は課題の提出状況・完成状況、プリントの管理状況などで判断する。 | | | | | |
| 評価の観点の趣旨と評価方法 | | | | | | | |
| 各観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 | | | |
| 評価の観点の趣旨 | ・コンピュータや情報機器を使って情報を統合し、表現することに興味を示し、情報を分かりやすく表現することに関心を示していたか。 | ・伝えたい内容を分かりやすく表現する為の工夫をする。 ・製作物や情報発信の結果を自己評価や相互評価し、改善を考える。 | ・情報を効果的に発信する為のマルチメディア技能表現、ビジュアル技能表現ができる技術を身に付けられたか。 | ・情報発信における受け手への配慮や、正しく伝える為の工夫の必要性を理解している。 | | | |
| 評価方法 | ・授業への出席状況 ・授業への取り組む姿勢 ・課題の作成状況 | ・授業への取り組む姿勢 ・実習での発表 ・課題の作成状況 | ・実習での発表 ・課題の作成状況 | ・実習での発表 ・課題の作成状況 | | | |